

指定管理施設評価 年間評価シート

令和4年度評価 (令和5年度実施)

1. 施設概要

Table with 4 columns: 施設名, 所在地, 指定管理者, 指定管理者所在地, 指定期間, 利用料金制, 施設所管課, 施設分類, 事業実施型, 選定方法, 電話. Content includes 三田市障害児療育センター, 三田市井ノ草808番地, 公益財団法人 ひょうご子どもと家庭福祉財団, etc.

2. 指標

Table with 4 columns: 施設の設置目的, 管理運営における基本理念, 評価指標 (R4年度, R3年度, R2年度), 1 年間延べ利用者人数, 2 療育内容に満足している保護者の割合.

3. 管理運営状況

Table with 6 columns: 項目, 詳細, 現指定管理者 R4年度, 現指定管理者 R3年度, 前管理者 R2年度. Includes 施設利用状況 and 指定管理者の収支状況.

Table with 4 columns: 利用者満足度調査結果, 実施時期, 回答数, 主な調査内容及び満足度 (普通以上の割合). Content includes 令和4年 7月・12月, 50件, 95%.

指定管理施設評価 年間評価シート		令和4年度評価 (令和5年度実施)	
施設名	三田市障害児療育センター	施設分類	事業実施型
指定管理者	公益財団法人 ひょうご子どもと家庭福祉財団	施設所管課	共生社会部福祉共生室障害福祉課

4. 各項目における評価内容

評価の観点	評価項目	項目区分	指定管理者セルフ評価	市評価
Ⅰ.基本的なサービスの提供	(1)施設運営に係る協定事項の遵守	適正管理	3 適正	3 適正
	(2)利用者の安全確保	サービス効果	4 やや優れている	3 標準
	(3)利用承認、案内等の対応と接遇	サービス効果	4 やや優れている	3 標準
	(4)市、関係団体、地域等との連絡調整	サービス効果	5 優れている	5 優れている
	(5)施設の目的に沿ったサービスの提供	サービス効果	5 優れている	5 優れている
	(6)目標の達成度	サービス効果	4 やや優れている	3 標準
Ⅱ.施設の管理	(1)建物保守管理・設備機器類の安全管理	適正管理	3 適正	3 適正
	(2)収納・文書・備品の適正管理	適正管理	3 適正	3 適正
	(3)清掃・衛生管理・警備	適正管理	3 適正	3 適正
	(4)指定管理者が行う修繕	サービス効果	5 優れている	4 やや優れている
	(5)コスト削減、環境配慮の取り組み	サービス効果	5 優れている	5 優れている
Ⅲ.事業の実施 【事業実施型のみ】 ※2倍得点	(1)効果的な情報提供	サービス効果	4 やや優れている	3 標準
	(2)委託事業（ソフト事業）の実実施計画	サービス効果	4 やや優れている	3 標準
	(3)委託事業（ソフト事業）の目標達成	サービス効果	4 やや優れている	4 やや優れている
	(4)自主事業への取り組み	サービス効果	4 やや優れている	4 やや優れている
	(5)共生社会の推進に向けた取り組み	サービス効果	4 やや優れている	4 やや優れている
Ⅳ.満足度向上への取り組み	(1)苦情等への対応	サービス効果	5 優れている	4 やや優れている
	(2)利用者獲得及び収入増加に向けた取り組み	サービス効果	4 やや優れている	3 標準
	(3)利用者ニーズに応じた改善	サービス効果	5 優れている	4 やや優れている
	(4)利用者の満足度	サービス効果	4 やや優れている	5 優れている
(得点率＝評価項目の評点の合計÷満点×100)			得点率	79%
			総合評価	A

適正管理【3段階】	サービス効果【5段階】
3 適正	5 優れている
2 課題有	4 やや優れている
1 要改善	3 標準
	2 やや劣っている
	1 劣っている

該当しない評価項目は斜線表示とする



得点率	総合評価
概ね80%以上 ※	S 優良
概ね70%以上 ※	A 良好
概ね60%以上 ※	B 標準
概ね50%以上	C 要努力
概ね50%未満	D 要改善

※評価項目に1つでも1の評価がある場合は、C以下とする

5. 総評

<p>指定管理者による所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響により例年行っている行事を中止することがあったものの、令和3年度よりは多くの行事を開催することができた。ボランティアの方の協力を得ながら、児童だけではなく、保護者も参加できる行事を開催することができた。 ・コロナ禍の影響を考慮しながら、小学校、幼稚園、保育園との連携を強化し、見学に来ていただく等、情報共有することができた。 ・児童だけではなく、保護者の疾患や障害等により、臨機応変に対応しなければならない場面があった。また、外国にルーツのある方が増加し、言葉や文化の違いでコミュニケーションが困難なことがあった。今後もこのような課題が増加し、さらに臨機応変な対応が求められると考えられる。その都度どのような対応ができるか、検討していく必要がある。
<p>市による所見</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の障害程度や状態に応じた専門的な療育を行うことができた。 ・外国にルーツのある家庭の児童が増えてきており、言語面等で対応が困難なケースがあるものの、課題解決に向けて前向きに取り組んでいる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国にルーツのある児童や複雑な背景を持つ家庭が増えてきている。今後、さらに対応力を向上させていく必要がある。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き個別の障害程度や状態に応じた専門的な療育を行う。 ・小学校や幼稚園、保育園との連携を強化し、児童がかかるがも園以外の場所でも安心して過ごせるように支援する。 ・通常事業に加え、園庭開放や各種行事を行うことで地域や保護者との交流を促進し、さらなる共生社会の推進を目指す。